

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		グロース水川Ⅱ		公表日		令和 8 年 3 月 26 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12	0	申請の時と同様に適切なスペースを確保している。	全体を見渡しにくい構造にもなっている為、療育時には見渡せるような配慮をしていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12	0	適切な職員配置を行っている。	適切な職員配置となるように、療育時間中の出勤や固定ではないシフト等、非常勤も含め全職員に協力を今後も仰いでいく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	2	施設出入口以外はバリアフリー化されている。設備には視覚的に分かるように案内されているものもあり、また、施設出入口については契約時に説明等にて都度、周知している。	引き続き、都度の周知を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12	0	出勤時に点検も兼ねて職員で指導室の清掃を行っている。また、ホワイトボードに予定を書いて、子ども達が日々の行動をイメージ出来るようにしている。	活動の幅を広げたり、活動のしやすさを求める為の設備点検や設備配置を検討していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12	0	子どもの状況に応じて相談室及び事務室を個別の部屋として使用できるようにしている。	個別の対応が増えた場合を検討、視野に入れていく必要がある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	11	1	業務改善の為の話し合いを職員間でしている。話し合った内容については議事録として記し、非常勤の職員にも周知している。	業務改善のためのPDCAサイクルを広く職員が参画出来るように心がけていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	1	保護者向け評価表の実施をして、内容について周知及び話し合いをして、業務改善に繋げるよう努めている。	保護者のより多くの声を業務改善へと繋げていけるように努めていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	1	社員会議で意見交換、個別面談にて業務改善に取り組んでいる。	非常勤職員の声を吸い上げたり、職員各々でも意見交換が出来る場を設けていきたい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	12	事業所内で分析、業務改善に努めている。	第三者機関による外部評価については、今後も検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	5	事業所内研修や外部研修を行っている。	広く職員が参加したり、また外部研修にも非常勤が参加したりと、研修参加への幅を広げていくことに努めていく。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12	0	ホームページにて支援プログラムを掲載している。	支援プログラムの内容に至っては、利用児童に対応出来るように、都度修正、改善を行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	12	0	個別に面談の機会を設け、一人一人の状況を確認して計画を作成している。また、広い視野を確保する為、児童発達支援管理責任者以外の職員も客観的に分析している。	こどもと保護者のニーズや課題をより客観的に分析していくことに努めていく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	1	個別支援計画の評価を各職員も実施し、広く検討され、作成をしている。	日々の支援の中でも共通理解を深めることで、更なる利用児童への支援の改善を目指していく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12	0	個別支援計画を職員が都度確認出来るようにデータ、紙媒体で常置している。また、日々の支援への落とし込みも努めている。	全職員が計画を理解し、より計画に沿った支援となるように努めていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	2	定期的面談にてアセスメントを行い、LINEにて日々の細かい様子、出来事を共有している。また、フェースシート追加項目に日々の行動観察したものを記載している。	標準化されたものだけでなく、インフォーマルなアセスメント実施に努めていく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11	1	「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」等、家族の意向や年齢、個々の特性に応じた支援内容の設定をしている。	各々に合った具体的な支援となるように努めていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11	1	事業所内で調理訓練等の活動内容を全体で決めている。	チームの中でも様々な意見が出るように、チーム内でも分担を試みる。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	2	調理訓練等の活動内容が固定化されないように意見交換の下、行っている。	固定化がないように広く意見を取り入れるようにしていく。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	12	0	個々の特性に応じて、個人としての目標、集団の中での目標を設定し、活動に取り組み、支援を行っている。	より子どもの状況や個々の特性を理解し、個別活動、集団活動での支援へと繋げられるように努めていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	3	打ち合わせや役割分担、チームでの連携を行っている。LINEグループでも共有している。	支援開始前に必ずとは限らないこともある為、日々のルーティン業務として組み込むようにしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	4	打ち合わせや振り返りを行っている。LINEグループでも共有している。	支援終了後に必ずとは限らないこともある為、日々のルーティン業務として組み込むようにしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12	0	サービス提供記録を毎日記載し、共有している。	サービス提供記録から支援の改善へと繋げられるように努めていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12	0	半年に一度モニタリングを行い、個別支援計画の見直しを行っている。また各職員も支援計画の評価を行っている。	今後も引き続き行い、職員に周知していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	11	1	4つの基本活動が複合するように、日々の支援や活動内容に工夫をしている。	地域交流の機会を増やしていけるように検討していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	12	0	子ども達で予定やおでかけ先を決めたり、買い物訓練等、自己決定力が身に付けられる支援を心掛けている。	選択肢を増やしたり、自己選択、自己決定の場を提供していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	1	児童発達支援管理責任者が基本的に参画し、状況に応じて適切な職員が参画している。	様々な職員が参加出来るように人材育成にも努めていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	8	学校や事業所、相談支援センター等との連携が取れるように努めている。	医療機関との連携は地域の課題として捉え、今後を考える必要がある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	12	0	各学校との情報共有を保護者を通じて、直接電話でのやり取りをし、適切な連携を取っている。	今後もトラブル等ないように、連携に努めていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	11	現在のところ就学前の施設との情報共有には至っておらず、保護者からの連絡に留まっている。	今後、検討も視野に入れていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	8	卒業から障害福祉サービス事業所に移行する前例がない。	障害福祉サービス事業所へと移行する場合も考慮し、障害福祉サービス事業所との日頃の連携を図れるように努めていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	8	主に児童発達支援管理責任者が児童発達支援センターとの連携を図っている。スーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けていない。	スーパーバイズや研修等を受ける機会を設けられるように働きかけをしていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	9	児童クラブ、児童館への送迎はあるものの、交流には至っていない。	今後、検討も視野に入れていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	12	（自立支援）協議会には参加出来ていないが、放課後等デイサービス事業所連絡会には参加している。	（自立支援）協議会にも参加していくことを検討していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12	0	送迎時、LINEにて、必要に応じて日々の状況を伝達し、情報共有に努めている。	より密な情報共有が出来るように努めていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	7	ペアトレーニングは実施出来ていないが、アセスメント、モニタリング時など、必要に応じて保護者支援を行っている。	ペアトレーニングや家族向けの研修を取り入れることを今後検討し、毎年のグロース祭り時に実施することを目標にしている。
関係機関や保護者との連携	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12	0	契約時に児童発達支援管理責任者より、書面及び口頭にて説明をしている。	より分かりやすい説明を心掛けていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12	0	契約時における面談等で意向について話を聞くようにし、子どもと保護者両局の意見を踏まえ作成している。	子どもと保護者のニーズにしっかりと耳を傾けていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	12	0	作成後、計画を説明しながら同意を得ている。	より分かりやすい説明を心掛けていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12	0	普段から相談しやすいような環境、関係性を作り、助言や支援を心掛けている。	積極的に交流し、助言や支援を行っていく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	10	父母会等の実施は行っていないが、保護者同士の連携を図る意味も含んだイベントを毎年実施している。	父母会については、保護者からの要望があれば検討し、更なる交流の機会を増やしていくように努めていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	1	苦情がないように、日々の関係性から配慮し、苦情があった場合にも対応出来るように、職員間で話し合ったり、苦情マニュアルを作成している。	現段階では、苦情等と判断する事例はないが、あった場合には迅速かつ適切な対応、改善が出来るように心掛けていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	11	1	ITツール・システムを導入し、月毎の予定等を配布したり、ブログにて日々の活動について発信している。	保護者に理解してもらおう体制を整えていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12	0	個人情報の管理には十分注意を払い、鍵付き書庫にて保管している。	今後も、個人情報の取り扱いには十分注意し、遵守するように努めていく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12	0	情報伝達には配慮し、工夫している。	各保護者や子どもに合わせた意思の疎通を図れるように努めていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	8	地域住民を招いた行事の実施とは呼べないものの、広く参加出来るような行事を実施している。また、地域の行事には事業所として参加することもある。	より地域に開かれた事業運営となるように、イベント等の開催を目指していけるよう努めていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	1	職員への周知を行い、保護者には緊急時対応マニュアルについては書面にて配布している。	発生を具体的に想定した訓練となるように改善していくとともに、防犯マニュアル等についての保護者への周知にも努めていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11	1	策定しており、訓練等も実施している。	今後、様々なことを想定した訓練を検討し、実施していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	11	1	契約時や服薬が始まった時など、保護者とのやりとりで都度、情報共有をしている。	てんかん持ちの子どもは現在在籍がないが、今後のことを考え、てんかんについての知識や支援について深く学んでいく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	7	契約時、保護者からアレルギー情報もついて事前の確認を行ったり、検査した際には都度、情報共有をしている。	医師の指示書に基づく対応も今後、検討していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12	0	安全計画を作成し、日々の業務の中で設備点検を行っている。	研修や訓練に至っては、今後深く考えていく必要がある。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	3	安全計画の作成は出来ているが、周知には差がある。	全家庭に広く周知してもらおうように努めていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	1	ヒヤリハットの共有から、再発防止に努めるように事業所内で話し合い、検討している。	非常勤の職員にも作成、共有の体制を整えていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	1	研修参加や情報共有を行い、適切な対応が出来るように努めている。	事業所内研修のみならず、全職員が外部の研修に参加したりと、一人一人の意識を高めていくように努めていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	11	1	身体拘束は推奨していないが、やむを得ない場合の対応については契約時、モニタリング時に説明を行っている。	放課後等デイサービス計画への記載の仕方を検討していく。	